

青梅線は、私たちを国立公園へ誘う

奥多摩駅



長いトンネルを抜けた先が終点の奥多摩駅。街を囲うかのように 360°山に囲まれる景色。南側には、駅前のシンボル、三角形をした愛宕山が見えます！

川井駅～古里駅



深い谷と間近に迫る山々をゆったり見るスポット。秩父多摩甲斐国立公園のキャッチコピー「森と溪谷」の美しさが感じられる景色です。周辺には、石灰岩の採掘現場も（本紙の「青梅線の歴」を合わせてご一読を）。

沢井駅～御嶽駅



山のとっぺんに建物のようなものが見える付近は御岳山。武蔵御嶽神社や御師集落（神主が営む宿坊）が見えます。古来より信仰の山として親しまれてきた御岳山を探してみましょう。

日向和田駅 付近



日向和田駅は秩父多摩甲斐国立公園の東端に位置する、国立公園の玄関口の駅。山々に囲まれ、人々の暮らしの営みを感じられる景色です。駅周辺には国立公園の看板があります。

古里駅～白丸駅



トンネル7つを抜けどんどん山奥へ。眼下の木々の間から、一瞬だけ白丸湖が見えます。目を凝らし、探してみましょう。湖の水は、都民の生活水である多摩川で、河口から約 80km の場所に位置します。

川井駅



トンネルを抜け、一気に山が深くなります。白い橋の前後には多摩川がチラーリ。多摩川の環境をいかした釣り場、キャンプ等の体験ができます。ここから奥多摩町に突入！

石神前駅～沢井駅



この周辺の沢井では、江戸幕府に献上されていた「澤井ゆず」が名産。昼夜の気温差と水はけのよい土壌が生む、自然の恵み「ゆず」の果実が目まぐるしくと車窓から見えます（時期：秋～冬）。

到着
首都圏の新宿駅
から約 100 分

青梅線の車窓から見える景色は
奥多摩が首都圏に最も近い
森林美と溪谷美の国立公園であることを
あなたに教えてくれる

ここから
国立公園

ここから
青梅線

出発

青梅線の歴史

青梅線は、観光客やその地域に暮らす人々を運ぶ電車です。しかし、その昔は「ある物」を運ぶ貨物列車だったことをご存じでしょうか？そのある物とは「石灰岩」です。青梅や奥多摩の山々は石灰岩の産地の一つでした。採掘した石灰岩を輸送する目的で、石灰岩を乗せた貨物列車が行き交っていました。

青梅線は今から 130 年前の 1894 年（明治 27 年）に開業、1998 年までは石灰岩を乗せた貨物列車が走る風景が、青梅線ならではの景色の一つだったのです。

石灰岩を輸送する青梅線のイメージ

青梅線のナンバー 1

青梅線は、都内で最も標高が高い場所を走る路線です。奥多摩駅が最高で 343m、東京タワー（333m）とほぼ同じ高さと考ええるとスゴイですね。そして新宿駅は標高約 38m なので、都心から 300m ほど上っていることになります。

もう一つの都内ナンバー 1 は、トンネルの数。青梅駅から奥多摩駅間には計 14 のトンネルがあり、御嶽駅より西にかけてトンネルの数がどんどん増えていきます。

標高の高さと山の中を通るトンネルの数から、西に行くにつれ山が深くなることを物語っています。※ケーブルカーを除く



参考：青梅鉄道資料調査会、開館 40 周年特別展「青梅線開通 120 周年」、青梅市郷土博物館、2014 青梅線百年誌、青梅線開通 100 年を祝う実行委員会、1994

車窓から見る国立公園の景色

立川から奥多摩にかけて、西に進むにつれ、車窓から見える緑の割合が多くなっていきます。都市と自然のボーダーラインは、青梅線のあたりでしょうか。青梅駅から西は一気に自然度が高くなり、民家やビルの景色から、美しい森と深い溪谷の景色に移り変わります。

じつは、このあたりは、東京、埼玉、山梨、長野の 1 都 3 県にまたがる秩父多摩甲斐国立公園。青梅市の日向和田駅付近（裏面参照）から国立公園に入ります。この国立公園のキャッチコピーは首都圏に最も近い「森」と「溪谷」の山岳公園。

車窓から見る「森」と「溪谷」の景色から、国立公園の自然を感じてみましょう。



森林



溪谷

第 138 号 奥多摩ビジターセンター セルフガイド

奥多摩を歩こう！



青梅線の車窓から見る景色

青梅線の車窓から見える景色は
奥多摩が首都圏に最も近い
森林美と溪谷美の国立公園であることを
あなたに教えてくれる



古里周辺から見た景色

奥多摩ビジターセンター

〒198-0212 東京都西多摩郡奥多摩町氷川 171-1

TEL：0428-83-2037 URL：https://www.ces-net.jp/okutamavc/

指定管理者：（株）自然教育研究センター（略称 CES）